

# 教育と福祉の連携による家庭教育支援事業

## 事例報告

### ～高萩市訪問型家庭教育支援事業について～



茨城県高萩市教育委員会

1

## 1 高萩市の概要

### 海と山、自然に恵まれたまち

茨城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、西は多賀山地が連なり、その間を花貫川と関根川が流れて溪谷をつくっています。これらの海や山の自然景観は県の自然公園に指定されています。また、北部は福島県東白川郡塙町と茨城県北茨城市に接し、南部は日立市、西部は常陸太田市に接しています。東京からは約150kmで、常磐自動車道を利用して約2時間の距離に位置しています。

地域の総面積は193.65km<sup>2</sup>。県土の3.2%を占めています。地域の約85%が山林原野等で、耕地面積は1,038haとなっています。



通り過ぎるには  
おいしいまち  
高萩市

### ● 車の場合（常磐自動車道）

東京	水戸	高萩	いわき	仙台
150km	50km		50km	200km
120分	40分		40分	160分

### ● 電車の場合（JR常磐線）

東京	水戸	高萩	いわき	仙台
110分	40分		30分	180分



人口 28,816人  
面積 193.6km<sup>2</sup>  
(H29.7.1現在)

茨城県の3.2%  
高萩市の約85%が山林原野

※東京、水戸、いわきへのアクセスは、特急利用の場合。

※仙台へのアクセスは、JR東北新幹線経由の場合。

2



## 公立学校数及び児童生徒数

- 小学校 4校 1, 226人
- 中学校 3校 667人



## 2 高萩市の家庭教育をめぐる現状と課題

- ☆ 親を教育する機関は、どこにも存在しない
- ☆ 学校に、暗黙の了解のもとに任されている
- ☆ 子育ては、車の運転より怖いはず！
  - ・車の運転免許には、交付や更新制度がある
  - ・しかし、子育てには免許交付も更新もない
  - ・誰でも簡単に親になれる



### (1) 現状

- ☆ 特別な事情をもつ子どもたちのための乳児院と児童養護施設がある。
- ☆ 母子家庭の増加や核家族化が進み、地域から孤立した家庭が多く見られる。



保護者の実態

子育てやしつけに悩みや不安を抱える  
家庭教育の重要性の認識が低い

## (2) 課題

これまでの取組

- ①不登校につながるような課題をもった家庭への支援
  - ・担任教諭による家庭訪問
  - ・市子育て支援課による相談支援
  - ・適応指導教室への通室
  - ・スクールカウンセラーによる支援
  - ・民生委員・児童委員による学校訪問
  
- ②家庭教育の重要性を啓発及び保護者の意識改革
  - ・子育てサポーターによる「子育て講座」の実施  
(小学校就学時検診, 幼稚園入園説明会)



支援の限界

7

---

## (2) 課題

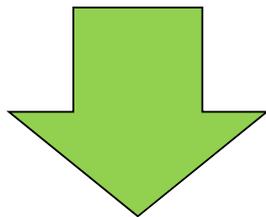
- ①課題を抱えながらも相談に来ない保護者への対応
  
- ②スクールカウンセラーにつなぐことのできない児童生徒への対応
  
- ③学校や市適応指導教室に通室できない児童生徒への支援
  
- ④義務教育終了後の支援
  
- ⑤教育と福祉の連携による家庭教育支援

8

### 3 訪問型家庭教育支援事業の概要

#### (1) 目的

課題を抱えながらも  
「つなぐ」事のできない家庭・児童生徒への支援



## 平成28年度

## 家庭教育支援チーム

(カウンセリングスキルを身に付けた地域人材)

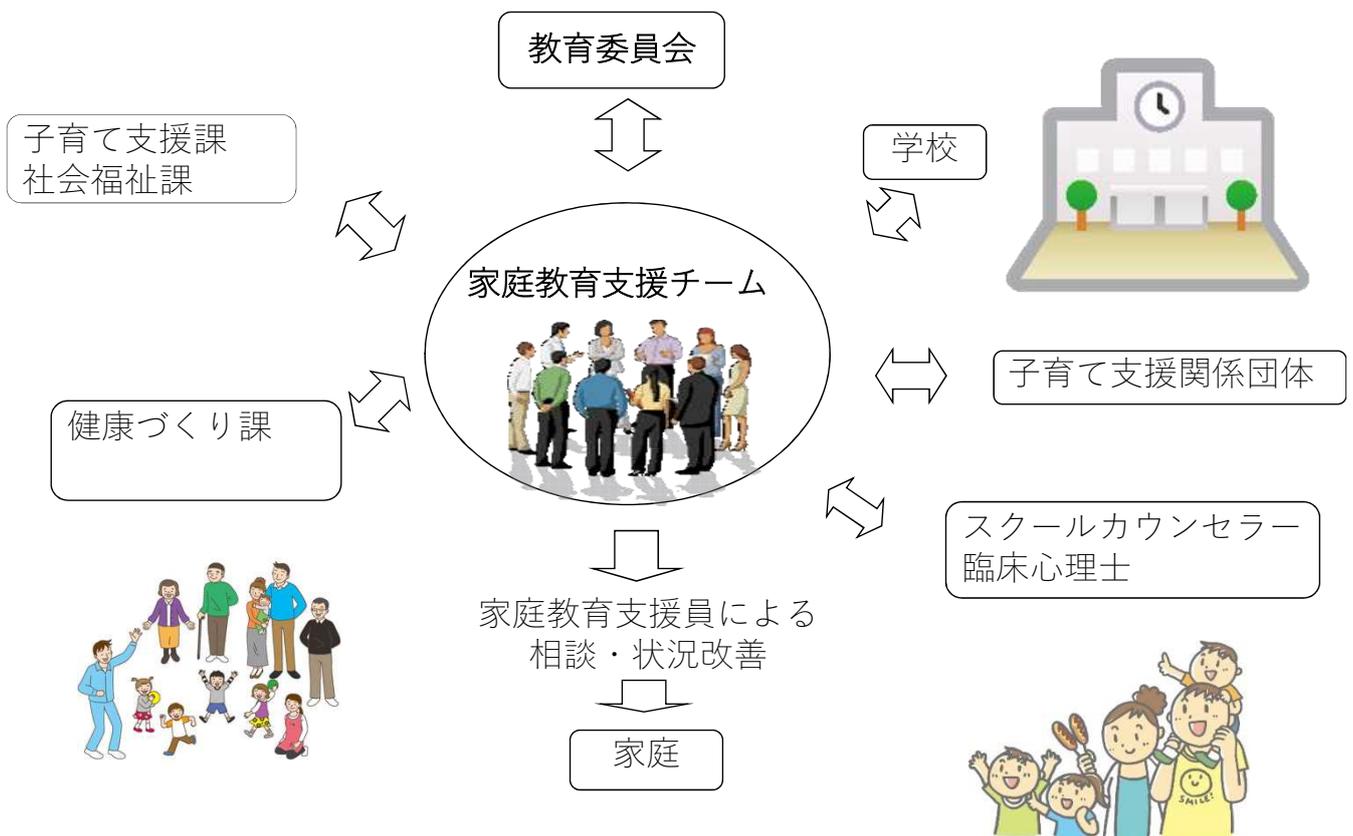
家庭訪問により

直接的・機動的にきめ細やかに

寄り添う支援を行う

9

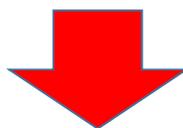
#### (2) 組織



 <p>全ての家庭対象</p> <p>全ての家庭</p>	 <p>不登校対象 非行対象</p> <p>全ての家庭</p> <p>ネグレクト対象 育児不安対象</p>	 <p>中1保護者対象</p> <p>全ての家庭</p> <p>小1保護者対象</p>	 <p>各エリアごとのメニュー</p> <p>全ての家庭</p>
<p><b>ユニバーサル型</b></p>	<p><b>ターゲット型</b></p>	<p><b>ベルト型</b></p>	<p><b>エリア型</b></p>
<p>「面」の支援</p>	<p>「点」の支援</p>	<p>「帯」の支援</p>	<p>「区」の支援</p>
<p>全戸訪問（全ての家庭を訪問の対象とする）を行う。</p>	<p>具体的な課題を抱える家庭を訪問の対象とする。</p>	<p>対象年齢を限って全戸訪問を行う。</p>	<p>地域ごとの特徴に応じた訪問支援のメニューを設定する。</p>
<p>○メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全戸訪問のため保護者に受け入れられやすい。</li> <li>問題の未然防止、早期発見につながりやすい。</li> </ul>	<p>○メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の問題状況に応じた支援ができる。</li> <li>課題が明確で訪問支援員の専門性を発揮しやすい。</li> </ul>	<p>○メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象年齢の家庭にはユニバーサル型支援のメリット。</li> <li>相談内容の事前想定が容易。</li> <li>乳幼児健診のように支援対象者別のスクリーニングが可能。</li> </ul>	<p>○メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体内の実態調査の結果等のデータを活用し実状に応じた支援が行いやすい。</li> </ul>
<p>○デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>規模の大きな自治体で行う場合の財政的負担、訪問支援員の確保が課題。</li> </ul>	<p>○デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受入れ側に具体的な課題がないと動きにくい。</li> <li>問題解決型の支援になりがちで、家庭教育支援の領域での対応が難しい。</li> </ul>	<p>○デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる年齢が限定される。</li> <li>必要に応じて継続的支援につなげる体制が求められる。</li> </ul>	<p>○デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象地域の受入れ体制を構築する必要がある。</li> <li>支援メニューを個別に設定することが必要。</li> </ul>
<p>○取組事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県湯浅町 等</li> </ul>	<p>○取組事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道釧路市</li> <li>大阪府泉大津市</li> <li>和歌山県橋本市</li> <li>茨城県高萩市</li> </ul> <p>等</p>	<p>○取組事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪府大東市</li> <li>鹿児島県いちき串木野市 等</li> </ul>	<p>※都道府県内の特定の自治体で実施、市町村内の特定の校区で実施（英国では、剥奪指標〔地域の貧困の水準を指標化したもの〕を用いたエリアマップを作成して関係者が共有することで地域の特性に応じた支援を展開している）</p>

## 高萩市訪問型家庭教育支援チームの構成・特徴

**9名の支援員（男6，女3）**  
 元校長，元教員，児童養護施設職員，  
 適応指導教室指導員



**12名の支援員（男7，女5）へ**

(3) 訪問型家庭教育支援の実施方法等について  
学校や子育て支援課からの支援要望



- ① ケースに適した家庭教育支援員を選
- ② 支援員が学校でのケース会議等に参加
- ③ 「個別の支援計画」を作成



支援の実施  
支援会議で情報共有  
福祉と連携するメリット

妊娠期から家庭の様子を知る保健師と情報共有

13

教育委員会  
訪問型家庭教育支援

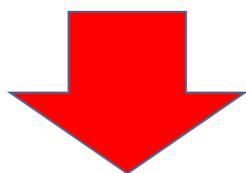


子育て支援課  
移動発達相談

健康づくり課  
3歳児検診での家庭教育学級

14

学校の教職員や教育委員会等とは異なる  
第三者の「家庭教育支援員」の関わり



保護者のストレスが軽減  
現実の課題と向き合い、養育が改善  
子どもの生活リズムの確立

15

#### (4) 事業実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高萩市地域家庭教育推進協議会	第1回 6月					第2回 3月						
訪問型家庭教育支援会議	毎月おおむね第4水曜日											
拠点校支援員の配置	毎月おおむね第4水曜日											
1年生全戸訪問	→								→ アンケート調査			
県主催支援員養成研修会	第1回	5月	第2回	6月	第3回	8月	第4回					2月
市主催支援員養成講座	8月～2月 年6回											

16

## 4 平成30年度の取り組み

### (1) 小学校1年生 全家庭訪問《ベルト型》

- ・ 事業の周知と課題の早期発見・未然防止のため
- ・ 199人（197件）の家庭訪問を実施
- ・ 支援員1人あたり16～17件
- ・ 117件で保護者に会えた
- ・ 会えなかった80件についてはチラシを残した
- ・ ベルト型のデメリットを解消するために11月にアンケートを実施

17

資料1

資料2 家庭訪問記録様式（高萩市）

秘

（報告様式）

記録者名（ ）

小学1年生全家庭相談・訪問記録						
平成 年 月 日（ ）	対応者	<input type="checkbox"/> 母	<input type="checkbox"/> 父	<input type="checkbox"/> 祖母	<input type="checkbox"/> 祖父	支援員名1（ ）
訪問時間		<input type="checkbox"/> その他（ ）				支援員名2（ ）
児童氏名：（男・女）	学校名： 小学校（1年組）	支援員名3（ ）				
家庭教育支援チームを知っているか （訪問チラシを読んでいたか）		<input type="checkbox"/> 知っている（読んだ）		<input type="checkbox"/> 知らない（読んでいない）		
地域で相談する相手や子育て仲間		<input type="checkbox"/> いる		<input type="checkbox"/> いない		
子育てに関する困りごと		子ども	<input type="checkbox"/> 家庭学習（宿題）をしない <input type="checkbox"/> 朝起きられない・夜寝ない	<input type="checkbox"/> 子ども間のトラブル <input type="checkbox"/> 勉強についていけない	<input type="checkbox"/> 整理整頓・片づけ <input type="checkbox"/> 落ち着きがない	<input type="checkbox"/> 夫婦間の連携
		保護者	<input type="checkbox"/> 保護者間のトラブル <input type="checkbox"/> 仕事と家庭の両立 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 子育てにイライラする	<input type="checkbox"/> 特になし	
気になることや要望がある場合（具体的に）				<input type="checkbox"/> 再度訪問が必要 <input type="checkbox"/> 留守等のためポストに投函		
備考						

※個人情報に対しては守秘義務があります。情報の取り扱いにはくれぐれもご注意ください。

※訪問後は速やかに記入し、速やかに提出してください。

18



高萩市教育委員会では、保護者のみなさまが子育ての悩みや不安を抱えて孤立しないよう、また、安心して子育てができるように、地域の方々とともに家庭教育の充実に向けた活動に取り組んでいます。

#### 家庭教育支援とは

地域の方々ともに行うさまざまな活動を通して、家庭と学校・地域のかけはしとなり、保護者のみなさまの子育てを応援します。

このようなメンバーで活動しています。

子育てサポーター、学識経験者、教員OB、適応指導教室指導員等

●本日は、小学校 1 年生全家庭訪問で伺いました。

(家庭教育支援員： )

お留守のようでしたので、チラシを入れさせていただきました。



私たち家庭教育支援員は、子育てに関する情報をお届けするとともに、お話を聞き、気軽に話してください。

お問い合わせ  
高萩市教育委員会 学校教育課  
電話：23-1135  
FAX：23-1126  
担当：〇〇 〇〇

## <アンケートより> 回収率 40.1%

- ・ 支援員の方がとてもよい方で話しやすかった。  
もっとゆっくり話したいので再訪問してほしい。
- ・ 顔を見て話すことができ安心できた。
- ・ 相談できる窓口があることを知ることができてよかった。
- ・ この活動は大賛成。大変だと思うがこの先も続けてほしい。



<アンケートより> 回収率40.1%

- ・ 事前に家庭訪問の日時を知らせてほしい。
- ・ 支援事業についてこのアンケートで初めて知った。本当に家庭訪問しているのか。
- ・ 支援員の方の声が大きく、近隣に聞かれたくない相談事などとてもできる状況ではない。



21

## (2) 拠点校支援員の配置《中学校区というエリア型におけるターゲット型》

- ・ 学校との連携，課題の早期発見・未然防止のため
- ・ 市内3つの中学校に支援員1人ずつ
- ・ 定期的な会議への参加
- ・ 担任や生徒指導主事との情報交換
- ・ 児童生徒の実態把握
- ・ 学区内の小学校との連携



学校教職員とチーム員の連携が強化



**支援依頼の増加**

22

### (3) 市適応指導教室との連携

- ・ 送迎の補助
- ・ 学校と市適応指導教室のつなぎ役

### (4) とまり木の会との連携

- ・ 悩みを抱える保護者のための会
- ・ 2ヶ月に1度、夜間に開催
- ・ スクールカウンセラー，訪問型家庭教育支援員が参加
- ・ 個別のカウンセリングと集団での座談会のどちらかを選択
- ・ 卒業生の保護者にも呼びかけ

23

---

## 5 成果及び課題

### (1) 平成30年度の成果（12月現在）

#### ☆ 対象家庭 12名の児童生徒

小学校 1年生 1人

5年生 2人

中学校 1年生 1人

2年生 5人

3年生 3人

#### ☆ 進捗状況 訪問支援回数（延べ178回）

24

現在の状況	人数
普通通りに通学	3人
短時間登校	4人
学校の相談室に登校	2人
夜間登校	1人
部活動のみ参加	1人

25

### 小学校 1 年生

全戸訪問時，登校しぶりが見られその後再訪問。本人や保護者の気持ちにより添いながら支援。現在はあまりしぶることなく登校できている。

### 小学校 5 年生

児童養護施設で生活。情緒特別支援学級に在籍。通常学級での離席や授業妨害などがあったため，拠点校支援員が施設や学校へ定期的に訪問。子育て支援課や児童相談所，スクールカウンセラーとも連携し，信頼関係を築きながら心の安定を図っている。以前よりも落ち着いて生活している。

26

### 中学校 3 年生

中学校 1 年生から不登校。母子家庭。市適応指導教室に定期的に通っている。2 人の支援員が交代で母の送迎をサポートしたり，家庭訪問を実施したりしている。適応指導教室では学習の他，本人が興味のある卓球やテニスをするようになった。近くにある通信制高校への進学を視野に入れ，作文や面接の練習を行っている。

27

### 中学校 3 年生

中学校 1 年生から不登校。運動能力は高いが，知的に遅れが見られる。2 人の支援員が母親と子どもそれぞれに寄り添い支援を続けた結果，改善が見られ，2 年生のとき支援解消となる。しかし，母親が子育て支援課に「子どもから暴力を振るわれる」「今後の進路が心配」という相談があった。そのため，支援を継続することになった。現在は学校と支援員が連携し，家庭訪問しながら登校支援を続けている。

28

## (2) 課題

- ・ どこからも実質的援助がない家庭への支援
- ・ 主体性を持たない保護者への対処
- ・ 各支援員の活動に偏り（訪問回数の不均衡）
- ・ 新たな支援員の発掘・育成

29

---

## 6 平成31年度 of 取組

- (1) 小学校1年生家庭の全戸訪問の継続
- (2) 支援体制の見直し
- (3) とまり木の会（保護者のための会）との連携強化
- (4) 義務教育終了後の伴走型支援

30



# いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ